

【朴泳好】

朴泳孝に泳教という長兄がいたことは知られていますが、泳教と泳孝の間に泳好という次兄がいたことはあまり知られていません。

甲申政変の失敗後、朝鮮国内に残った開化派の多くが殺されました。朴泳孝はかろうじて日本に亡命できましたが、12歳年上の泳教は王の許を離れなかったため殺害されたといえます。

泳孝の9歳年上の泳好は当初、甲申政変後に死亡したとみられていましたが、実は生存していました。儒者の黄玗が著した野史『梅泉野録』によりますと、泳好は名前を変えて鎮安の山中に潜み、高宗31年(1894)に姿を現しました。鎮安は全羅北道鎮安郡とみられます。一帯には石塔で有名な馬耳山塔寺があり、今は道立公園になっています。

『大韓帝国官員履歴書』によりますと泳好は壬子年(1852)2月13日に生まれ、開国492年(1883)8月5日、進士となりました。翌年9月、郵政局司事となりましたが、ほどなく甲申政変が起きました。

10年近い潜伏生活の後、睿陵(哲宗と哲仁王後の陵)令(中央官衙の長官職の一つ)となりました。すぐ依願免官となり、1907年6月、宮内府で制度の整理などを担う制度局の理事となりましたが、制度局は間もなく廃止されました。

【詩の応酬】

その後の職歴は不明ですが、大正8年(1919)3月に東京の雅文会から発行され

た『大正詩文』第七帙第三集に泳好の五言律詩が掲載されています。「次韻。酬輓齋見寄」と題し、この頃朝鮮を訪れた須永との詩の応酬のようです。作者は「一夢 朴泳好 朝鮮」となっています。「一夢」は泳好の号です。

一方、須永文庫の目録を見ると、泳好の書2点があります。

一つは北宋張詠の七言詩「謝逸士」を書いたもの、もう一つは24句からなる五言古詩です。

「謝逸士」は文献によって文字の異同があるので、参考のため泳好の書を翻字し、句ごとに改行して下に記します。

寒蛩夜静忙催織

戴勝春歸苦勸畊

人若無心濟天下

不知虫鳥又何情

朴泳好

蛩はコオロギ、戴勝は鳥のヤツガシラです。

後者の五言古詩は落款に「錦城人朴泳好」とあります。錦城は全羅南道羅州地域の旧地名で、一帯は潘南朴氏の本貫地でもあります。

しかし、泳好自筆の書は、実は須永文庫にもう 2 点あります。まず 1 点目は目録の作者欄に「一夢」とある五言絶句で、落款には「乙未季秋贈別 輓齋大人行軒 一夢」とあります=写真=。これも句ごとに改行して書き写します。

南郭黄花晚

東溟碧浪平

[絶帆]随遠鴈

将奈送君情

乙未季秋贈別

輓齋大人行軒 一夢

[絶帆]は何の字かよく分からないので、推定で記しました。「絶航」の可能性もあるかと思いましたが、いかがでしょうか。海を隔てて別れ別れになることを言うのでしょうか。鴈は雁の異体字で、書信を届ける使者の意味があります。

【乙未】

これが書かれた乙未は明治 28 年(1895)で、日清戦争が終わり、須永が初めて朝鮮半島に足を踏み入れた年です。季秋とありますから旧暦九月ですが、前月に王妃の閔妃（明成皇后に追号）が王宮内で殺される事件が起きました。

この事件は現場で多くの日本人が目撃され、関与が疑われた朝鮮特命全権公使

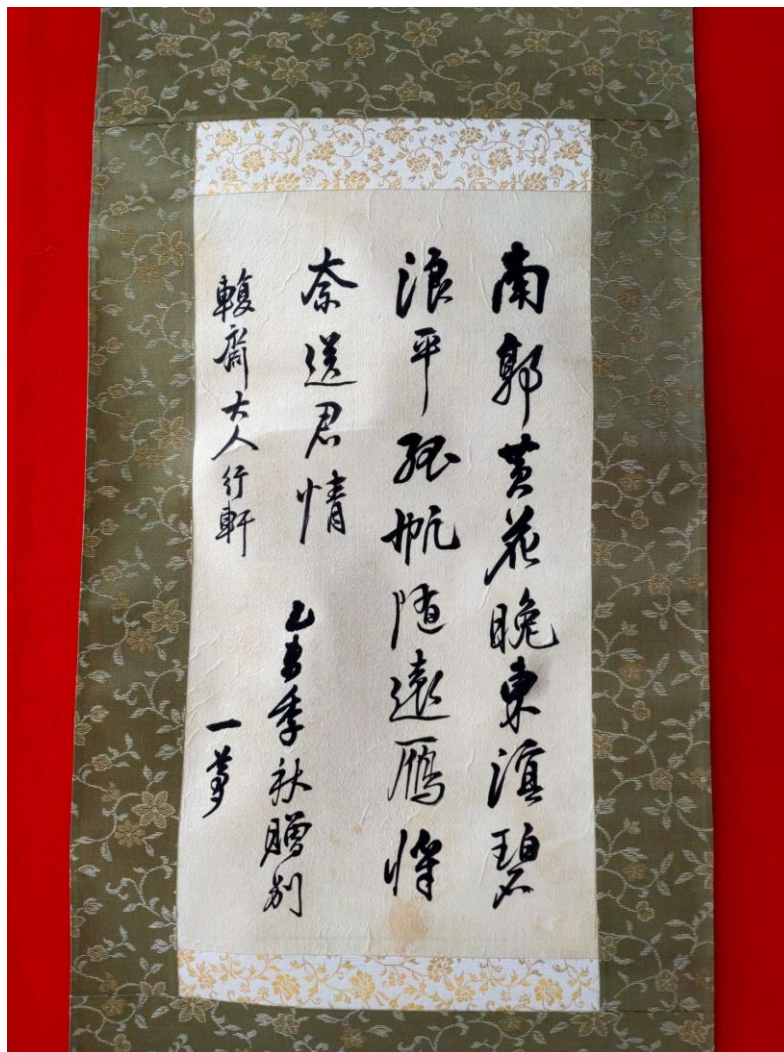
の三浦梧楼らは日本で裁判にかけられましたが、結局無罪となりました。

須永は事件に直接には関わっていませんが、事件後の三浦に付き添い、三浦と周

囲との連絡役のような役割も担いました。

また、関与を疑われて日本に亡命してきた朝鮮人たちを須永は支援しました。た

だ、落款の「乙未」が別筆のようにもみえ、さらに検討を続けたいと思います。



2点目は、目録には載せられていませんが、七言詩の書があります。

さらに、泳好の詩が『輓齋詩稿続編』に複数載せられています。須永が原稿用紙に書き写したものと思われます。

『輓齋詩稿続編』は、須永本人が帙に入れて保存していた詩稿などを永島信吉氏が昭和43年6月21日に1冊に綴じたものです。表紙に『輓齋詩稿その他続輯一』と題簽が貼られています。永島氏は元高校教師で、須永文庫の整理を任せられました。

この冊子には「訪朴泳好」と題した須永の詩が載せられ、題の下の割注に「泳好者泳孝仲兄、今居忠清南道瑞山郡貞美面鳳城里而隠于農」とあります。忠清南道瑞山郡で農業に従事していたようです。詩に続いて「大正三年、余与泳好相見、別後、杳無聞矣。同五年突如寄詩、互相唱和故及」ともあります。大正3年(1914)に会った後、2年後に泳好から詩が送られてきたというのです。また、泳好がソウル滞在時に桂洞に住んだこと、一夢居士のほか、西湖散人と号したことなどが書かれています。泳好は昭和2年(1927)に亡くなりました。

【余談】

1年前に発刊された『須永文庫資料集 明治21・22年 須永元日記』はおかげさまで売れ行きが順調で、このたび増刷されました。ますます多くの方に読まれることを願っています。

2024年4月3日 広沢有久

【修正】

「訪朴泳好」と題した須永の詩に関連し、「大正三年、余与泳好相見、別後、杳無聞矣。同五年突如寄詩、互相唱和故及」としましたが、「大正三年」を「大正二年」に修正します。「大正3年(1914)に会った後、2年後に泳好から詩が送られてきた」とある件を「大正2年(1913)に会った後、3年後に泳好から詩が送られてきた」とします。

2024年4月29日 広沢有久